

2026 年度

履修証明プログラム

出願要項

【履修証明プログラムとは】

平成 19 年の学校教育法の改正により、大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校（以下「大学等」という。）における「履修証明制度」が創設され、12 月 26 日より施行されました。

これまでも科目等履修生制度や公開講座等を活用して、その教育研究成果を社会へ提供する取組が行われてきたところですが、より積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できることとしました（法第 105 条等）。

「履修証明制度」による「履修証明プログラム」として、本学では社会人の方を対象に下記のプログラムを開講いたします。

【プログラムの内容】

- ・本学で開講している授業科目の中から、「教養コース」として 1 つのプログラム、「専門コース」として 2 つのプログラムを一定のまとまりのある学修プログラムとして提供してきました。

2026 年度より、「IR マネジメントコース」として新しいプログラムを提供いたします。※2027 年度より、更にプログラムが追加される予定です。

- ・授業科目は本学学生と同じ時間割、同じ教室で受講していただきます。
- ・各授業科目の成績評価方法等の詳細な内容は、配付資料「シラバス」で確認してください。
- ・各プログラムの授業科目の中から、以下のとおり、規定の履修時間を満たすように受講を希望する授業科目を選択してください。

「教養コース」「専門コース」・・・履修時間合計 120 時間以上

「IR マネジメントコース」・・・履修時間合計 60 時間以上

「教養コース」

“地域を探究する”をテーマに主に大阪を中心とした歴史、文化、産業について学びます。私たちが暮らす日本、さらには「大阪」とはいったいどのような特性を持った地域なのか。知られざるその特性を様々な観点から学ぶ機会を提供します。科目は本学の全学共通科目（教養科目）になります。

「専門コース」

（中小企業分野）

“地域社会と中小企業を学ぶ”をテーマに本学がこれまで力を注いできた地域社会と中小企業分野について学びます。中小企業問題や中小企業経営についての知識を、初歩から応用まで幅広く修得することができます。また地域と中小企業の連携による「地域づくり」、地域社会と中小企業に関する様々な科目の中から自ら科目を選択して学ぶことができます。

(公共学分野)

“公共性と地域”をテーマに、公共学の基礎的な理論や事例を学び、社会福祉、官民連携、非営利団体の重要性を理解できます。課題の発見、解決能力を高め、地域に貢献できるスキルを養います。科目は、本学の公共学部配当科目が中心になります。

谷岡一郎プロデュース

「IR マネジメントコース<くらし>分野」

IR (Integrated Resort、統合型リゾート) は、国際会議場、ホテル、レストラン、ショッピング、カジノなどで構成されるレジャー施設であり、観光客を集める面において大きな効果が期待されます。大阪は 2030 年に IR の開業に向けて準備を進めています。IR 研究の大家である本学の谷岡学長によって設置されるこの特別コースは、観光・レジャーによる地域経済の振興に関する講座のみならず、ギャンブル依存症の専門家による講座も設置し、複合的な視点から IR と我々のくらしについて解説していきます。

※本コースは、2027 年度に開設する「IR マネジメント<ビジネス>分野」を学ぶことにより、IR マネジメントにおける学修プログラムとして完結することができます。学長が担当する授業科目は<ビジネス>分野にて開講する予定です。

【開講科目一覧・概要】

○教養コース（開講科目一覧）

開講期	科目名	担当者	配当年次	単位	時間数
前期	日本の生活文化（注 1）	松本	1	2	22.5
	日本の食文化（注 2） 月	大西	1	1	12
	日本の住文化（注 3） 火	加茂	1	1	12
	地域探究論	明石	1	2	22.5
	地域連携史 I	明尾	1	2	22.5
	地域連携史 II	戸田	1	2	22.5
	日本の衣・染織文化（注 4） 火	高須	1	1	12
	大阪の歴史と文化 I（注 5）	伊藤(純)	1	2	22.5
後期	日本の生活文化（注 1）	松本	1	2	22.5
	日本文化事情	石上	1	2	22.5
	大阪の歴史と文化 I（注 5）	伊藤(純)	1	2	22.5
	大阪の歴史と文化 II	明尾	1	2	22.5
合 計				21	238.5

(注 1) 前期と後期に開講しますが内容は同じです。受講を希望する場合は前期または後期のいずれかを選択してください。

(注 2) 前期の後半に全 8 回の授業を行います。
初回授業日：令和 8（2026）年 6 月 8 日（月）～最終授業日：令和 8（2026）年 7 月 27 日（月）

(注 3) 前期の後半に全 8 回の授業を行います。
初回授業日：令和 8（2026）年 6 月 2 日（火）～最終授業日：令和 8（2026）年 7 月 22 日（火）

(注 4) 前期の後半に全 8 回の授業を行います。
初回授業日：令和 8（2026）年 6 月 2 日（火）～最終授業日：令和 8（2026）年 7 月 22 日（火）

○教養コース（概要）

開講期	科目名	担当者	概要
前期	日本の生活文化	松本	生活文化は、その名の通り、いろいろな人間生活のなかから生み出され、形作られたものです。ところが、時代が進むとともに忘れられたもの、消えてしまいそうなものもありますし、新たに生み出され現代の私たちの生活に根付いていったものもあります。この授業では、日本人の生活のなかから生み出された衣食住のあゆみを中心に、今にまで続いているものを中心に紹介していきます。また、現代日本の生活文化についての問題点などにも言及していく。
	日本の食文化	大西	人々の暮らしと密接にかかわる「食」を題材にとりあげ、その捉え方、歴史や認識について他者と比較することを通じて受講生自身の物事の捉え方や認識の特徴に対する気づきを促します。授業では、最初に、日本人の伝統的な食生活・食文化（和食文化）について、その歴史と特色、近年の食生活の変化と特徴をテーマにして学習します。次いで、1980年代以降提示された「日本型食生活」の意義をふまえ、食生活・食文化をめぐる問題状況、日本の食文化のこれから、国産・地産地消と食育・食文化について考えます。
	日本の住文化	加茂	住まいの文化は、慣れ親しみ、よく知っているようで知らないこと、気づかないことも多いかもしれません。また、場所や時期によって、表出する文化にも違いがあります。自国の住文化について、いろいろな切り口から改めて考え、気づき、知る機会としたいと思います。そのために、住まいの成り立ちと歴史、日本の風土的特徴からの住まいへの影響、少子高齢化など現代的な日本の社会状況と住まいの関係等を学びます。また、住まいを考えるとときに欠かせない内容である地球環境と住まいの関係についても学びます。
	地域探究論	明石	人は、どこか1つの地域に住んでいます。それぞれの地域は別の地域と違う特徴を持っています。この講義では、地域の立地、気候、地形、歴史や文化、暮らし方、産業活動、就労機会、地方自治体の財政力、地域資源（歴史・文化、産品等）など、地域の特徴や個性を知り、地域ごとの魅力や存在感を生み出す要因について学びます。また、地域の基本的な経済システムや社会、歴史・文化の特徴を知り、地域の活力を生み出す要因や地域の現状や課題（地域の盛衰状況）および地域社会の未来に対する自分の考え方をもつことができるように学びます。
	地域連携史 I	明尾	歴史は、単なる暗記の学問ではありません。生活常識が備わっていれば、あとは残された史料や現場に残る様々な痕跡をもとに科学的に研究していくものです。本講では、日本海・瀬戸内海を舞台とした北前船を中心に、地域特産品の流通とその影響を探究します。具体的には、北海道の昆布が上方文化の出汁を形成し、山形の紅花が大坂・京都・江戸の女性の化粧文化に影響を与えたこと。そして、大坂画壇の絵画作品が下り船によって山陽・山陰・北陸・東北へと伝播して行く過程を紹介します。

前期	地域連携史Ⅱ	戸田	江戸時代の西宮町（現兵庫県西宮市）は当時を代表する経済都市のひとつであり、「天下の台所」大坂の経済的な地域を脅かす存在でした。本授業では西宮の様々な産業（農業・漁業・酒造業など）や商業（廻船業など）を順番に取り上げて、大坂をはじめ西宮の周辺地域との経済的・文化的な「連携」の在り方や人々の暮らしの様子を講義します。そして授業を通して獲得した知識を携えて、授業で紹介した地域を自ら巡見する意欲を育みたいと思います。
	日本の衣・染織文化	高須	染織は人間の生活に密接にかかわりながら、新しい素材や技術の開発による影響を受け、その時代の価値や流行、用いる人の意向を反映し変化してきました。この授業では、日本の染織及び服飾の歴史について、時代によるそれらの変化と発展を追いながら、その中に反映された社会のありようや、日本人の美意識を学びます。また、身分による衣服の違い、日本各地で生み出された染織品などについても学び、その延長線上にある現在「きもの」と呼ばれているものを理解して、今後向かう方向や発展の可能性についても考えます。
	大阪の歴史と文化Ⅰ	伊藤(純)	大阪商業大学で学び、大阪で生活していても、大阪の歴史や文化について興味をもっている人は決して多くないでしょう。「大阪はどんなところ？」と問われた時に「タコ焼き・吉本、えーと…」ではなさない。私たちの学んでいる場、大阪について、地形や道、庶民の生活、歴史事象、宗教世界などなど、いろいろな分野にわたる話題を提供します。 15回の授業をきっかけにして、興味を持ったことがあれば自ら調べてみて下さい。そして、大阪の歴史・文化を自身の言葉で語ることのできる大阪商業大学の学生、将来大阪を背負うことのできる商業大学の卒業生として、社会で活躍してほしいと願っています。
後期	日本の生活文化	松本	前期と内容同一
	日本文化事情	石上	日本という国は、世界（国連加盟国 193 か国、日本が認めている国 195 か国）の中でも、さまざまな理由によって、特色のある国、特殊な国だと言われています。では、いったい日本のどのようなところが特殊であり、日本のどのような文化が他の国と異なっているのでしょうか。また、逆にどんなところが他の国々と共通しているのでしょうか。 この授業では、さまざまなテーマや視点から「日本」という国の姿を見つめ、日本文化の独自性（他の国や地域と異なる独自の要素）と普遍性（他の国や地域との共通性）について学び、日本という国と日本文化の特徴を理解します。昨年大阪・関西万博が開催されたため、博覧会を複数回取り上げます。
	大阪の歴史と文化Ⅰ	伊藤(純)	前期と内容同一
	大阪の歴史と文化Ⅱ	明尾	大阪の文化とは何でしょうか？お笑い、たこ焼き、出汁の効いたきつねうどん・・・、勿論それだけではありません。井原西鶴や近松門左衛門をはじめとする近世文学・演劇の大家が輩出しているだけではなく、漢詩や俳句、煎茶を嗜む結社（混沌詩社）が多く存在しました。その中で、経済的な繁栄を遂げた元禄以降の大阪において、町人の中で最も人気があったのが文人画です。本講では、中国に端を発する文人画がなにゆえ大阪町人に愛されたのか、残された絵画作品をもとに近世近代の大阪文化の深層に迫ります。商いと文化の密接な関係について、具体的な大阪画壇の作品をもとに授業を進めて行きます。

○専門コース

(中小企業分野 開講科目一覧)

開講期	科目名	担当者	配当年次	単位	時間数
前期	地域連携史Ⅲ	糸野	1	2	22.5
	地域経済学Ⅰ	石田	2	2	22.5
	中小企業論Ⅰ	糸野	3	2	22.5
	中小企業金融	林(幸)	3	2	22.5
	経営リーダーシップ論	文能	2	2	22.5
	地域社会と中小企業	太田・糸野・西井・ 前田(啓)	3	2	22.5
後期	地域経済学Ⅱ	石田	2	2	22.5
	事業承継概論	村上	2	2	22.5
	中小企業論Ⅱ	糸野	3	2	22.5
	中小企業政策論	糸野	3	2	22.5
	地域産業振興論	池田・糸野・ 中村(貴)・西井	3	2	22.5
合 計				22	247.5

(概要)

開講期	科目名	担当者	概要
前期	地域連携史Ⅲ	糸野	この授業では地域における経済を歴史的視点から考える。たとえば本学のある東大阪は「中小企業の街」と呼ばれている。東大阪以外でも、日本の各地に存在する地場産業や、特定地域の産業に視点を当て、なぜ地域に産業が興ったのか、その後、どのようにして発展したのか、具体的な事例を踏まえて解説する。特に授業では地域固有の要因に焦点を当てながら解説し、説明する予定である。このように本授業では、地域における歴史的視点から見た地域分析をふまえながら、地域における経済を学ぶものである。
	地域経済学Ⅰ	石田	「地域」という言葉をよく聞きます。地域は地理空間における一部分を指します。地理空間全体を国とすれば、その中の一部分が地域です。地理空間全体を世界とすれば、アジアやヨーロッパが地域になります。地域の範囲は取り上げる分析対象によって異なりますが、個々の地域には独自の歴史や文化、社会経済構造があり、また他の地域との交流関係もあります。地域問題や都市問題を考えるためには、それらを十分に把握しなければなりません。 授業では、地域と都市の様々な側面を分析するために必要となる経済学的ツールについて講義します。地域経済学の基礎的ツールを習得しながら、地域問題と都市問題を考察し、理解を深めます。
	中小企業論Ⅰ	糸野	中小企業という言葉はよく使用されるが実のところいろいろな考え方が錯綜しているのが現実である。この授業では、日本の企業の99%を占める中小企業について、戦前から振り返り、日本経済において中小企業の果たしてきた役割を考え学ぶものである。 中小企業論Ⅰでは、日本の中小企業を学ぶ上での基本的な考え方を中心に学ぶ。具体的には日本経済における中小企業の役割や位置づけである。そのうえで経済的・経営的な視点から見た日本の中小企業を解説する。
	中小企業金融	林(幸)	本講義では日本における中小企業を取り巻く金融環境や中小企業の資金調達手法についてその特徴を学びます。日本の企業の多くが中小企業であり、中小企業が事業を進展させるうえで資金は欠くことができません。そこで、中小企業はその資金をどのように調達しているのか、中小企業を取り巻く金融はどのようになっているのか、これらのことについて事例を挙げながら理解を深めていきます。なぜ中小企業専門の金融機関が必要になったのか、地域経済における中小企業の存在意義や金融機関との関係などを解説します。将来、金融機関、特に地域に根差した金融機関を視野に入れている方はぜひ履修してください。
	経営リーダーシップ論	文能	営利企業や非営利企業など、日本には数多くの組織が存在している。それら組織では、組織の目標達成に向けた活動が日々行われている。しかしながら、すべての組織が目標を達成し成長を遂げているわけではなく、残念ながら目標を達成することができず、結果として市場から撤退を余儀なくされるケースも存在する。 本科目では、組織が目標を達成し成長を遂げるには、経営リーダーによるマネジメントとリーダーシップが不可欠であることを経営の諸理論や企業の事例を通して学ぶ。

	地域社会と中小企業	太田・糸野・ 西井・ 前田(啓)	地域の企業経営者等をお招きして、現実の企業経営などを何うと共に、それらの企業・団体が地域とどのような関わりを持っているかを学ぶ科目です。東大阪市には中小企業が集積立地し、多様な事業活動が行われています。本科目は一般社会人の方にも開放され、中小企業経営者等外部講師の方に講義をして頂きます。①東大阪市を中心とする大阪経済の現状と課題、②中小企業の存立基盤と課題、③中小企業と地域の関係性、④企業経営の実際の現場の課題と戦略、⑤就職や起業など将来の進路の考え方、などを学ぶことを狙いとしています。
後 期	地域経済学Ⅱ	石田	地域には様々な社会経済的問題が発生します。産業、住宅、観光、文化等に関する問題が代表例です。それらの問題は、地域独自の社会経済構造や歴史、文化に起因しますが、地域の社会経済をより良い状態にするためには、問題解決のための対策が求められます。それは地域政策、都市政策と呼ばれています。地域の振興と結び付ながら「まちづくり」とも呼ばれます。授業では、地域の社会経済問題を把握し、対策を考察するために必要となる、地域経済学の基礎的知識を講義します。また、具体的な地域・都市政策とまちづくりを取り上げ、それらを分析しながら、理解を深めていきます。
	事業承継概論	村上	中小企業経営者の高齢化により、現在多くの企業で経営者が引退する時期を迎えています。しかしながら事業を後継者に引き継ぐ見通しの企業は少なく、「大廃業時代」が到来していると言われています。このような現状を踏まえて、事業承継の本質と課題について講義します。 本科目では、①事業を承継することが見込まれる学生だけではなく、②将来、中小企業を支援したいと考えている学生、③中小企業経営に関心がある学生など幅広い履修者を想定しています。したがって、たんなる事業承継のノウハウではなく、事業承継の社会的意義とともに、後継者による経営革新の実態や後継者に対する教育などについて事例を交えながら解説します。
	中小企業論Ⅱ	糸野	中小企業という言葉はよく使用されるが実のところいろいろな考え方が錯綜しているのが現実である。この授業では、日本の企業の99%を占める中小企業について、戦前から振り返り、日本経済において中小企業の果たしてきた役割を考え学ぶものである。中小企業論Ⅱでは前期の中小企業論Ⅰでの内容を前提として授業を進める。この授業では、戦後、日本経済の発展とともに生じた産業構造の変化と中小企業の発展・成長について、歴史的な分析を踏まえながら説明する。
	中小企業政策論	糸野	日本における企業の99%までが中小企業である。このような中小企業に関する政策は、1963年に「中小企業基本法」が制定されることにより産業構造政策の一環として体系化されたことからスタートしている。 この授業では歴史的視点から、日本の戦後の中小企業政策を振り返り、日本の中小企業の変化とその政策との関係を探るものである。そのうえで日本の中小企業研究がこれまでどのような視点でお紐わられてきたのか、政策との関係についても学ぶ。
	地域産業振興論	池田・糸野・ 中村(貴)・ 西井	地域経済は、そこに居住するヒトや仕事や学校に通うために当該地域に通勤・通学するヒト、農業などの一次産業を担う農家、製造業や流通・サービス業、運輸業、学校など、2次、3次産業を形成する様々な企業や組織、企業振興のための各種組合や商工団体、地域経済の青写真を描く行政等の活動によって成り立っている。地域産業振興論では、現場のナマの声を聞くため、地域経済を担う上記産業の経営者等の話を聞くほか、地域産業に詳しい教員によるリレー講義を行う。

(公共学分野 開講科目一覧)

開講期	科目名	担当者	配当年次	単位	時間数
前期	地域探究論	明石	1	2	22.5
	公共経営学入門	中嶋	1	2	22.5
	公共学 I	宍戸・長妻・松村	1	2	22.5
	経営学概論 I	大平	1	2	22.5
	地域社会参加論	的場	2	2	22.5
	社会的企業論	池田	2	2	22.5
	企業の社会的責任論	浅井	2	2	22.5
後期	公共経営論	初谷	2	2	22.5
	地域経営論	中嶋	2	2	22.5
合 計				18	202.5

(概要)

開講期	科目名	担当者	概要
前期	地域探究論	明石	人は、どこか1つの地域に住んでいます。それぞれの地域は別の地域と違う特徴を持っています。この講義では、地域の立地、気候、地形、歴史や文化、暮らし方、産業活動、就労機会、地方自治体の財政力、地域資源（歴史・文化、産品等）など、地域の特徴や個性を知り、地域ごとの魅力や存在感を生み出す要因について学びます。また、地域の基本的な経済システムや社会、歴史・文化の特徴を知り、地域の活力を生み出す要因や地域の現状や課題（地域の盛衰状況）および地域社会の未来に対する自分の考え方をもちつことができるように学びます。
	公共経営学入門	中嶋	公共経営学を初めて学ぶ学生のために、公共経営学の基本的知識を講義します。まず、「公共」とは何か、公共を「経営」することの意味を説明します。次に、公共をともに支える国や地方自治体、民間企業、NPOなどが、どのような考え方や手法で公共を「経営」するのかを解説します。 その上で、「私たち自身が、どのように公共経営に関わっていくことができるのか?」を考えます。授業では、最新の話題や具体的な事例を取り上げながら、わかりやすく講義します。 この科目は、学生が将来、官公庁、民間企業、NPOなどへの就職や、起業等により社会人として幅広く活動していく上で有益な共通の基盤をつちかいます。
	公共学 I	宍戸・長妻・松村	経営学・社会学・倫理学の立場から「公共」について考えます。公共学についての基礎を学ぶとともに、公共学部で学ぶ内容を概観します。現代日本では、個人主義が自己中心的になり、単なる利己主義に陥っている場合も少なくありません。公共的な精神が希薄になった個人主義の問題こそが現代的な課題であり、「個」を活かしながら「公共」を形成していくためにも、他者のことを思いやり、関係性を築くことのできる人材を育成することが肝要です。この科目では、社会に対する関心を育て、地域社会に積極的に貢献することの意義を考えます。
	経営学概論 I	大平	「企業ってなんだろう?」「企業ってどういう仕組みで成り立っているの?」「企業は誰のものなの?」「企業ってどんな活動を行っているの?」など、われわれの生活と密接な関係をもつ「企業」について学びます。今やわたしたちの生活は企業なしでは考えられません。たとえば、みなさんのお小遣いが減らされるのは、ひょっとすると家族が勤めている会社の業績が落ち込んだからかもしれません。あるいは、みなさんが日常何気なく利用している製品やサービスを思い浮かべてください。それらを製造・販売しているのは企業ではありませんか? この講義では、経営学を本格的に勉強する第一段階として、まずは「企業」について正しく理解していきます。
	地域社会参加論	的場	地域の課題解決には、市民の理解と参加が不可欠である。 また、地域社会に関わる全ての市民には、自らの意識の涵養と市民相互の連携及び他の地域の人々との相互理解、連携が求められる。これらの諸条件が整うことによって、地域の課題はスムーズに解決される。 本講義では、地域社会の課題解決には市民の参加が必要であること、また、市民が地域社会の構成員として自立しつつ、他者との相互理解と連携により地域社会の再生に取組むあり方を学ぶ。

前期	社会的企業論	池田	近年、地域や社会では子育て問題、教育問題、環境問題などさまざまな課題が山積している。これまで、こうした問題は行政が解決するものと考えられてきた。しかし、行政の財源が不足しているほか、問題が複雑多岐にわたり、行政だけでは解決が困難となっている。そこで、ビジネスの手法で解決するのがコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスであり、また、企業のCSR(企業の社会的責任)やCSV(共通価値の創造)活動と呼ばれているものである。本講義では身近な中小企業を中心に、企業の活動を紹介しながら、地域や社会的課題の解決について考える。
	企業の社会的責任論	浅井	近年、企業の社会的活動はSDGsへの貢献などを含めて一般的になりつつあります。しかし企業本来の目的である利益の追求とは異なるように見えます。ではなぜこれらの活動を、企業は行うようになったのでしょうか？ また、それらは企業にとって本当に必要な活動なのでしょう？ この授業では、企業が社会的責任とは何か、なぜそのような責任を問われるようになったのかについて、企業のあり方や企業統治の仕組みという視点から紐解いていきます。
後期	公共経営論	初谷	この授業では、公共経営論の基本的知識を講義し、公共経営の実践事例を紹介し、その目的や方法、成果、効果について説明する。 ①現代社会を構成する政府・民間の様々な主体の関係と、「公共」や公共を「経営」する意味について、わが国の戦後史を踏まえつつ解説する。 ②公共をとともに支える行政組織(国・自治体等)や民間組織(企業、NPO等)が、どのような考え方や手法により公共を経営するのかを、最新の話題をまじえながら説明する。 ③地域の公共的課題の解決を図る地域自治の仕組みや地域分権の取り組みについて、具体的事例を紹介し解説する。
	地域経営論	中嶋	地域において国や地方自治体といった政府が担う役割は大きく、地域住民が享受する公共サービスのレベルには地域差が生じているのが現状です。地域の特性や固有資源(ヒト・モノ・カネなど)を効果的かつ効率的に活用するための地域経営とはなにか、基本的な制度や理論から学びます。さらに、これまでもにはない創造的な手法や連携による共通価値の創造による社会的なインパクト(波及効果)を生み出すための要素や取り組みを「コレクティブ・インパクト」と呼ばれる仕組みから学びます。講義では、地域経営の理論や手法、行政や地域住民、民間の多様な組織に求められる要素について、各地の事例や最近の動向にも触れながら理解を深めていきます。

○谷岡一郎プロデュース

IR マネジメントコース

(くらし分野 開講科目一覧)

開講期	科目名	担当者	配当年次	単位	時間数
前期	人間社会とギャンブル	中條	1	2	22.5
	観光論	米盛	2	2	22.5
	現代社会と依存	谷岡(辰)	1	2	22.5
後期	リゾートマネジメント	近藤	2	2	22.5
	余暇政策論	中條	2	2	22.5
合 計				10	112.5

(概要)

開講期	科目名	担当者	概要
前期	人間社会とギャンブル	中條	古代から近代に至るまで、“偶然がもたらす事象”や“将来の不確実な結果”は、我々の社会と深い関りを持っている。古代における古い師は政治的な力を持ち、宝くじは古代より財政的に利用され、現代社会においても様々な形態のギャンブルが人間社会に様々なメリットとデメリットをもたらしている。 ギャンブルは我々の社会にとって重要な財源となっている一方で、犯罪やギャンブル依存症、青少年への悪影響などの社会問題を引き起こす。 人類最古の遊びであるギャンブルが持つ社会との関係性やセーフティーネットはいかにあるべきかを説明する。
	観光論	米盛	観光産業は、宿泊業、運輸業、飲食業、旅行業等、あらゆる分野が関連する裾野の広い総合産業であることから、経済波及効果や雇用創出力が高く、日本経済や地方創生の柱として期待されている。本授業では観光事業の具体的なケースを取り上げながら、観光がどのような仕組みで成り立っているのかを理解するとともに、観光事業におけるマネジメントの考え方を学ぶ。宿泊業や観光施設、地域観光事業などの各回の事例分析を通じて、観光を見る眼を養うことを目的とする。
	現代社会と依存	谷岡(辰)	現代社会においては、様々な形態の「依存」があり、テクノロジーの進化とともに新たな形態の依存も生まれて社会問題となるものもあります。この授業では学生に「依存」という社会問題の問題性を理解し、その予防や対策について理解することを目的としています。物質依存と行為・過程依存といった様々な依存の形態や、依存に至る物質や行動について説明するとともに、人間性や家庭環境に及ぼす影響、危険性、さらには法律面についても学びます。
後期	リゾートマネジメント	近藤	近年クオリティ・オブ・ライフ (Quality of Life, QOL) という概念の浸透により消費者はレジャー・余暇生活を重視する考え方が進んできている。本講義では、欧米や日本におけるリゾート地(滞在型観光)の発展過程と現在のトレンドを説明し、リゾート発展によって地域にもたらされる社会・経済・政治的環境の中での主体相互間(訪問客、自治体、観光関連業、地域住民)の関係を概観していく。さらに、パワーポイントや画像・映像を利用しながら、観光関連業である宿泊業、航空業、テーマパーク等について理解することも併せておこない、リゾート全体のビジネスの状況やあり方について考え、理解を深めていく。
	余暇政策論	中條	余暇とは私たちの主活動(仕事や学業)以外の自由時間で行われる行動であり、私たちの心や体をリフレッシュし、主活動において必要なエネルギーを満たしてくれる役割を果たします。国や地方自治体が様々な施策や制度により、国民の余暇をサポートすることは成熟した国家を形成するために必要であるといえます。レジャーやリゾート、遊興・遊びに関する制度や規制を把握し、我が国の実態を理解することにより、公共政策としての「余暇政策」を理解することがこの講義の狙いになります。

【受講資格】

下記のいずれかに該当する社会人

- ① 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、又は令和 8（2026）年 3 月卒業見込みの者。
- ② 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- ③ 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、又は令和 8（2026）年 3 月修了見込みの者。
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者、又は令和 8（2026）年 3 月修了見込みの者。
- ⑤ 文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程において、修業年限 3 年以上の課程を修了した者、又は令和 8（2026）年 3 月修了見込みの者。
- ⑥ 文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者、又は令和 8（2026）年 3 月までに合格見込みの者。
- ⑦ 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。

【定員】

若干名

【受講方法】

本学学生と一緒に、対象科目を教室で受講します。受講科目は各コースの「開講科目一覧」を参照し、受講者自身で選択します。修了に必要な時間数に注意して選択してください。

「教養コース」「専門コース」・・・合計 120 時間以上

「IR マネジメントコース」・・・合計 60 時間以上

○授業は、1 科目 90 分です。（月曜日～金曜日）

時限	授業時間
1	9 : 00～10 : 30
2	10 : 40～12 : 10
3	13 : 00～14 : 30
4	14 : 40～16 : 10
5	16 : 20～17 : 50

【受講期間】

令和 8（2026）年 4 月～令和 9（2027）年 3 月（詳細は学年暦を参照してください）

※履修コースや授業科目により授業の開始日、最終日は異なります。

※各授業は概ね 1 週間に 1 回講義があります。

※補講は土曜日等の、通常授業とは異なる曜日・時限で行なわれることがあります。

※大学入学共通テスト実施日は、学内への立ち入り禁止です。

令和 8 年度学年暦

	日 程	内 容
前 期	4月7日(火)	前期授業開始日
	4月30日(木)～5月2日(土)	臨時休講
	5月6日(水)	振替休日ですが、水曜日の通常授業実施
	7月20日(月)	祝日ですが、月曜日の通常授業実施
	7月28日(火)	授業予備日
	7月29日(水)～8月5日(水)	前期定期試験期間
	8月6日(木)・8月7日(金)	前期定期試験予備日
	9月7日(月)～9日(水)	追試験期間
	9月17日(木)	前期終了
後 期	9月18日(金)	後期授業開始
	9月21日(月)	祝日ですが、月曜日の通常授業実施
	9月22日(火)	祝日ですが、火曜日の通常授業実施
	9月23日(水)	祝日ですが、水曜日の通常授業実施
	10月12日(月)	祝日ですが、月曜日の通常授業実施
	10月30日(金)・10月31日(土)	大学祭のため休講
	11月3日(火)	祝日ですが、火曜日の通常授業実施
	11月23日(月)	祝日ですが、月曜日の通常授業実施
	12月22日(火)～1月4日(月)	冬期休業期間
	1月20日(水)	授業予備日
	1月21日(木)～1月29日(金)	学年末定期試験期間
	1月30日(土)	学年末定期試験予備日
	3月1日(月)～3月3日(水)	追試験期間
	3月31日(水)	学年終了

【受講会場】

大阪商業大学キャンパス (大阪府東大阪市御厨栄町 4-1-10)

【出願手続き】

○出願期間・場所

- ・令和 8 (2026) 年 3 月 2 日 (月) ～3 月 25 日 (水) ※日曜・祝日を除く 9 : 00～17 : 00
- ・大阪商業大学 教務課

○出願書類

- ① 履修証明プログラム履修申請書 (本学所定様式) 1 通
- ② 履歴書 (本学所定様式) 1 通
- ③ 最終学校の卒業 (見込み) 証明書 ※3 ヶ月以内に発行したもの 1 通

○検定料 5,000 円

※本学卒業生の検定料については、半額とします。

- 出願するコースを決め、出願書類に検定料を添えて出願期間に教務課窓口へ提出してください。
※時間割（毎年変更があります）を知りたい方は教務課へお問い合わせください。

【審査方法】

- 書類審査

審査結果発表日：令和 8（2026）年 4 月 1 日（水） 郵便で発送します。

【受講料等】 ※納入方法は審査結果発表時に連絡します。

本学卒業生の履修登録料については、徴収しません。

本学園設置校及び姉妹校の卒業生の履修登録料については、半額とします。

◆「教養コース」「専門コース」

履修登録料：30,000 円 授業料：120,000 円

※受講時間を 120 時間以上とするためには、12 単位以上の受講が必要です。

※12 単位を超える分については、1 単位 1 万円を徴収します。

◆「IR マネジメントコース」

履修登録料：30,000 円 授業料：60,000 円

※受講時間を 60 時間以上とするためには、6 単位以上の受講が必要です。

※6 単位を超える分については、1 単位 1 万円を徴収します。

【修了要件】

- ・1 年間で開講科目の内、以下の単位数（時間）を履修し、各科目が定める評価方法（試験又はレポート課題の提出等）により、成績評価において合格点（60 点以上）を取得することが必要です。

「教養コース」「専門コース」…12 単位以上（120 時間以上）

「IR マネジメントコース」…6 単位以上（60 時間以上）

- ・修了者には学校教育法第 105 条に基づき、本学より履修証明書を交付します。

【その他】

コース修了の有無に関わらず、当該科目を各成績評価によって修得された場合、希望される方には単位を認定することができます。

【問い合わせ先】

大阪商業大学 教務課

〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町 4-1-10

TEL：06-6781-8816